

2003年度 第1回 JSD 会員総会および理事会報告

JSD 事務局

1. 結論

出席者数（委任状の提出者を含む）が規約で定める定足数を満足し、理事会と総会の開催が成立した。

総会では、理事会で審議終了した支部長提出の議案が説明され、満場一致で承認された。また、報告事項について説明があり了承された。

2. 出席者および委任状提出者

（1）事会：9名/9名

出席者：小林秀徳、松本憲洋、三藤利雄、森義仁

4名

委任状：山内昭、黒野宏則、和泉潤、鈴木信幸、松本安生

5名

（2）員総会：45名/105名

出席者：小林秀徳、高橋信二、三藤利雄、飛田道典、宮本善文、山田善靖、
榎本哲也、池田誠、島田俊郎、森義仁、内野明、松本憲洋、上原拓郎

13名

委任状：外山たか之、佐藤徹、吉川道弘、坂元祐治郎、大迫尚司、野田玲二郎、堀内
行蔵、尾崎純英、坂倉省吾、豊島雅和、水内啓介、石井宏典、
野田英志、竹内智、和泉潤、近藤史人、雨宮隆、森岡圭太、岡村実奈、中島
清、大澤光、大賀英史、熊澤光正、森田道也、戸並隆、山内昭、黒野宏典、
宇野恵裕、澤田雅弘、岩澤嘉則、伊藤武志、田岡洋平

32名

以上

国際システムダイナミクス学会日本支部

2003 年度 第 1 回 会員総会

開催期日：2003 年 2 月 12 日

開催場所：中央大学市ヶ谷キャンパス

J S D 支部長 小林 秀徳

議題：

- (1) 2002 年度決算報告
- (2) 2003 年度事業計画
- (3) 2003 年度事業予算
- (4) 規約の改訂
- (5) その他

報告：

- (1) 2002 年度事業報告
- (2) その他

国際システムダイナミクス学会日本支部

2002 年度収支決算書

(2002 年 1 月 1 日 ~ 2002 年 12 月 31 日)

下記の通り、国際システムダイナミクス学会日本支部 2002 年度収支決算をご報告いたします。

	2002年度予算案	2002年度決算額
収入の部		
前期繰越金	<u>280,498</u>	<u>280,498</u>
会費収入	300,000	433,000
賛助会費	200,000	50,000
出版物予約金	-	100,000
出版物売上	20,000	11,000
雑収入	10,000	0
当期収入合計	<u>530,000</u>	<u>594,000</u>
収入の部合計	<u>810,498</u>	<u>874,498</u>
支出の部		
通信費	15,000	1,580
資料印刷費	0	0
事務用品費	0	0
書籍代	0	0
講師料	10,000	0
講師交通費	10,000	0
交通費	1,000	1,080
雑費	10,000	1,780
研究会地方開催補助費	0	0
アルバイト謝金	20,000	5,000
学会誌印刷代	<u>500,000</u>	<u>0</u>
当期支払い合計	<u>566,000</u>	<u>9,440</u>
次期繰越		
現金残高		324,058
預金残高		541,000
現預金合計	<u>244,498</u>	<u>865,058</u>
支出の部合計	<u>810,498</u>	<u>874,498</u>

以上の通り報告いたします。

2003 年 2 月 6 日

理事 (会計担当) 末武透

上記の会計について監査の結果、適正であると認めます。

2003 年 2 月 6 日

監事 鈴木信幸

監事 松本安生

2003 年度事業計画案

(2003 年 1 月 1 日 ~ 2003 年 12 月 31 日)

1. SD 研究会

- (1) 関東地区 : 6 回程度を予定する。
- (2) 関東以外 : 2 回程度を予定する。

2. 学会誌の発行

発行号数 : 3 号

発行次期 : 2003 年 3 月末日

内容 : 論文 5 編

ビジネス・プロセス・ダイナミクス研究分科会特集

(レポート 約 6 編)

翌年号の準備: 論文募集 2003 年 11 月(発行予定 2004 年 3 月末日)

3. 研究分科会の活動促進

現在の分科会数 : 4 分科会

新規予定 : 2 分科会(内 1 つは、合意形成手法研究分科会)

4. フォーラム/シンポジウムの開催

- (1) 第 3 回新世紀実学フォーラム 2003 年 1 月 15 日終了
- (2) 第 4 回新世紀実学フォーラム開催準備
- (3) JSD 研究発表会 2003 年 3 月 19 日予定
「BPD 研究分科会発表会」

5. System Dynamics Society などでの国際交流の促進

The 21st International conference of the System Dynamics Society

July 20 - 24, 2003 New York City

6. SD の普及のための Web 公開・講習会など

7. 運営体制の変更計画

4 月以降、実質的な事務局を中央大学研究開発機構から外部への移設することになっている。

この件に関して別途検討チームを設置し、3 月 20 日までに新運営体制(事業活動に必要な規則を含む)を策定する。

8. 2003 年度役員等の確認

支部長 : 小林秀徳

副支部長 : 山内昭・黒野宏則

理事 : 松本憲洋(総務)・末武透(会計)・三藤利雄・森義仁・和泉潤

監事 : 鈴木信幸・松本安生

幹事 : 上原拓郎・飛田道典

顧問 : 島田俊郎・大鹿譲・坂倉省吾・亀山三郎・住田友文・榛沢芳雄

以上

国際システムダイナミクス学会日本支部

2003 年度事業予算案

(2003 年 1 月 1 日 ~ 2003 年 12 月 31 日)

下記の通り、国際システムダイナミクス学会日本支部 2002 年度収支決算をご報告いたします。

	2002年度決算額	2003年度予算額
収入の部		
前期繰越金	<u>280,498</u>	<u>865,058</u>
会費収入	433,000	520,000
賛助会費	50,000	50,000
出版物予約金	100,000	0
出版物売上	11,000	20,000
イベント参加費	0	90,000
雑収入	0	0
当期収入合計	<u>594,000</u>	<u>680,000</u>
収入の部合計	<u>874,498</u>	<u>1,545,058</u>
支出の部		
通信費	1,580	30,000
資料印刷費	0	20,000
事務用品費	0	10,000
交通費	1,080	10,000
書籍代	0	0
雑費	1,780	50,000
講師料	0	100,000
研究会地方開催費	0	50,000
研究分科会補助金	0	100,000
アルバイト謝金	5,000	10,000
学会誌印刷代	0	300,000
事務所賃貸料	0	120,000
当期支出合計	<u>9,440</u>	<u>800,000</u>
次期繰り越し		
現金残高	324,058	
預金残高	<u>541,000</u>	
現預金合計	<u>865,058</u>	<u>745,058</u>
支出の部合計	<u>874,498</u>	<u>1,545,058</u>

規約の改訂提案

国際システムダイナミクス学会日本支部 規約

改定案

第1条 (名称)

本支部は国際システムダイナミクス学会日本支部と称する。

第2条 (目的および事業)

本支部は国際システムダイナミクス学会日本支部英文規約 (Constitution of the Japanese Chapter of the International System Dynamics Society, 以下規約という) 第2条に掲げる目的を達成するために次の事業を行う。なお、事業活動に必要な規則等は別に定める。

- (1) システムダイナミクスに関する研究会の開催
- (2) システムダイナミクスに関する図書、報告書、資料等の発行
- (3) システムダイナミクスに関する調査研究
- (4) システムダイナミクスに関係ある内外の学会、その他団体との連絡協議
- (5) その他規約に掲げる目的の達成に必要な事業

第3条 (会員構成)

- 1 本支部は会員と~~準会員~~に区分される~~一般~~会員、学生会員および賛助会員をもって構成する。
- 2 会員は国際システムダイナミクス学会 (The International System Dynamics Society) の会員で、本支部の主旨に賛同し、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。
- 3 ~~準会員~~および学生会員は前項以外のもので、本支部の主旨に賛同し、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。
- 4 賛助会員は本支部の主旨に賛同する団体で、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。なお、賛助会員は1口につき3名分の資料提供を受け、研究会活動に参加登録できる。

第4条 (入会)

- 1 会員として本支部に入会を希望するものは、所定の入会申込書によって支部長に申し出なければならない。
- 2 ~~準会員または学生会員として本支部に入会を希望するものは、会員または準会員1名の推薦をもって、所定の入会申込書によって支部長に申し出なければならない。~~
- 3 ~~賛助会員として本支部に入会を希望するものは、理事会の推薦をもって、所定の入会申込書によって支部長に申し出なければならない。~~
- 4 ~~会員、準会員、賛助会員の入会は支部理事会において承認し決定する。~~

第5条 (会費)

本支部の会費は~~一般~~会員、~~準~~会員については年5,000円、学生会員については年2,000円、賛助会員については1口年50,000円とする。

第6条 (退会)

- 1 ~~一般~~会員、~~準~~会員、学生会員および賛助会員は支部長に届け出て退会することができる。
- 2 会費の滞納が1~~ヶ~~年以上におよぶときはその資格を失う。

第7条 (役員)

本支部に次の役員を置く。

支部長 (President)	1名
副支部長 (Vice-President)	3名以内
理事 (国際担当: International Society Liaison)	1名
理事 (総務担当: Secretary)	1名
理事 (会計担当: Accountant)	1名
理事	10名以内
監事	2名

第8条 (役員を選任)

役員は総会において~~一般~~会員、~~準~~会員および賛助会員中より出席者の過半数の賛成を得て選任する。

第9条 (支部理事会)

- 1 支部理事会は役員をもって構成し、毎年総会時および支部長がその必要を認めるとき、または役員数の過半数以上の要請があるときに開催する。
- 2 支部理事会は、本支部の活動を統括する。
- 3 支部理事会は、必要に応じて日本支部の活動にかかわる事項を審議し、実行するための各種委員会・分科会を設置することができる。
- 4 支部長が必要と認めるときは、幹事を置くことができる。
- 5 委員および幹事は、支部理事会の推薦にもとづき、支部長が委嘱する。
- 6 委員、幹事の任期は1年とし重任を妨げない。
- 7 支部理事会は、日本支部の活動を支援、指導いただくためにアドバイザーボードを設置することができる。

第10条 (役員任期)

役員任期は2年とする。

第11条 (顧問)

支部長は、支部理事会の議を経て、顧問を委嘱することができる。

第12条 (総会)

総会は年1回以上開催し、役員選任、事業計画、予算、決算、規約の変更、その他重要事項

- を承認する。
- 第13条 (定足数)
総会の定足数は会員の3分の1以上、支部理事会の定足数は役員数の2分の1以上とする。
- 第14条 (会計年度)
会計年度は毎年1月1日より12月31日にいたる期間とする。
- 第15条 (事務局)
1 本支部の事務局を下記に置く。
〒105-0004 東京都港区新橋1-18-16 (財)統計研究会 内
国際システムダイナミクス学会 日本支部事務局
電話番号：03-3591-8496
ファックス：03-3595-2220
- 付 則 2 事務局は理事(総務担当)と幹事で構成し、理事(総務担当)が事務局長を務める。
- 1 第10条の規定にかかわらず、支部発足時の役員任期は1991年12月31日までとする。
- 2 本内規は1990年9月22日より発効する。
- 3 1991年7月22日一部改正
- 4 1992年2月17日一部改正
- 5 1995年3月13日一部改正
- 6 1996年3月29日一部改正
- 7 2003年2月12日一部改正

改訂された規約

国際システムダイナミクス学会日本支部 規約

第1条 (名称)

本支部は国際システムダイナミクス学会日本支部と称する。

第2条 (目的および事業)

本支部は国際システムダイナミクス学会日本支部英文規約 (Constitution of the Japanese Chapter of the International System Dynamics Society, 以下規約という) 第2条に掲げる目的を達成するために次の事業を行う。なお、事業活動に必要な規則等は別に定める。

- (1) システムダイナミクスに関する研究会の開催
- (2) システムダイナミクスに関する図書、報告書、資料等の発行
- (3) システムダイナミクスに関する調査研究
- (4) システムダイナミクスに関係ある内外の学会、その他団体との連絡協議
- (5) その他規約に掲げる目的の達成に必要な事業

第3条 (会員構成)

- 1 本支部は会員と準会員に区分される一般会員、学生会員および賛助会員をもって構成する。
- 2 会員は国際システムダイナミクス学会 (The International System Dynamics Society) の会員で、本支部の主旨に賛同し、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。
- 3 準会員および学生会員は前項以外のもので、本支部の主旨に賛同し、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。
- 4 賛助会員は本支部の主旨に賛同する団体で、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。なお、賛助会員は1口につき3名分の資料提供を受け、研究会活動に参加登録できる。

第4条 (入会)

- 1 入会を希望するものは、所定の入会申込書によって支部長に申し出なければならない。
- 2 入会は理事会において承認し決定する。

第5条 (会費)

本支部の会費は一般会員については年5,000円、学生会員については年2,000円、賛助会員については1口年50,000円とする。

第6条 (退会)

- 1 一般会員、学生会員および賛助会員は支部長に届け出て退会することができる。
- 2 会費の滞納が1ヶ年以上におよぶときはその資格を失う。

第7条 (役員)

本支部に次の役員を置く。

支部長 (President)	1名
副支部長 (Vice-President)	3名以内
理事 (国際担当: International Society Liaison)	1名
理事 (総務担当: Secretary)	1名
理事 (会計担当: Accountant)	1名
理事	10名以内
監事	2名

第8条 (役員を選任)

役員は総会において一般会員および賛助会員中より出席者の過半数の賛成を得て選任する。

第9条 (理事会)

- 1 理事会は役員をもって構成し、毎年の総会時および支部長がその必要を認めるとき、または役員数の過半数以上の要請があるときに開催する。
- 2 理事会は、本支部の活動を統括する。
- 3 理事会は、必要に応じて日本支部の活動にかかわる事項を審議し、実行するための各種委員会・分科会を設置することができる。
- 4 支部長が必要と認めるときは、幹事を置くことができる。
- 5 委員および幹事は、支部長が委嘱する。
- 6 委員、幹事の任期は1年とし重任を妨げない。
- 7 理事会は、日本支部の活動を支援、指導いただくためにアドバイザーボードを設置することができる。

第10条 (役員任期)

役員任期は2年とする。

第11条 (顧問)

支部長は、理事会の議を経て、顧問を委嘱することができる。

第12条 (総会)

総会は年1回以上開催し、役員選任、事業計画、予算、決算、規約の変更、その他重要事を承認する。

第13条 (定足数)

総会の定足数は会員の3分の1以上、理事会の定足数は役員数の2分の1以上とする。

第14条 (会計年度)

会計年度は毎年1月1日より12月31日にいたる期間とする。

第15条 (事務局)

- 1 本支部の事務局を下記に置く。
〒105-0004 東京都港区新橋1-18-16 (財) 統計研究会 内
国際システムダイナミクス学会 日本支部事務局

電話番号： 03 - 3591 - 8496

ファックス：03 - 3595 - 2220

- 付 則
- 2 事務局は理事（総務担当）と幹事で構成し、理事（総務担当）が事務局長を務める。
 - 1 第 10 条の規定にかかわらず、支部発足時の役員の任期は 1991 年 12 月 31 日までとする。
 - 2 本内規は 1990 年 9 月 22 日より発効する。
 - 3 1991 年 7 月 22 日一部改正
 - 4 1992 年 2 月 17 日一部改正
 - 5 1995 年 3 月 13 日一部改正
 - 6 1996 年 3 月 29 日一部改正
 - 7 2003 年 2 月 12 日一部改正

2002 年度事業報告

(2003 年 1 月 1 日～2003 年 12 月 31 日)

1. 研究会等

6 月まで従来の形式で研究会を実施し、研究分科会を発足させた 7 月以降は、研究会の名称を「JSD 研究会」と統一した。

< ナショナル研究会 >

第28回 ナショナル研究会

期日: 2002 年 1 月 26 日(土) 13 時 30 分から午後 17 時 00 分

場所: 中央大学市ヶ谷キャンパス 2611 教室

テーマ1: 「SD による地域モデルについて(首都圏モデルを中心に)」

報告者: 池田 誠氏(東洋大学国際地域学部)

テーマ2: 「1 時間で解る SD ツール 第3弾: “悩めるデンティスト”」

報告者: 松本憲洋氏(中央大学研究開発機構)

< 定例研究会 >

第92回 定例研究会

期日: 2002 年 3 月 16 日(土) 13 時 30 分～17 時

会場: 関西大学経済・政治研究所会議室

関西大学千里山キャンパス 円神館内

テーマ1: 「企業財務諸表のSDモデリングによる分析手法について」

報告者: 山口 薫 氏(大阪産業大学)

「企業財務諸表のSDモデリングによる分析手法について」

テーマ2: 「アーチファクトによる思考の支援とSD」

報告者: 森 健一 氏(関西大学)

第93回 定例研究会

期日: 2002 年 4 月 20 日(土) 13 時 30 分～16 時 00 分

会場: 中央大学市ヶ谷キャンパス 2611 教室

タイトル: 「ローカル・カップリングとグローバル・カップリングによる複合システム」

報告者: 森 義仁氏(お茶の水女子大学)

< JSD 研究会 >

第1回 JSD 研究会

期日 : 2002 年 7 月 13 日(土) 13 時～17 時

場所 : 中央大学市ヶ谷キャンパス 2321 教室

内容 : 「研究分科会について」

「島田長期モデル検証」研究分科会
「ビジネス分野におけるST / SDの適用効果」研究分科会
「SD教育」研究分科会
「自然・社会の環境モデル」研究分科会

第2回 JSD 研究会

期日 : 10月8日(火)18時30分~20時30分
場所 : 中央大学市ヶ谷キャンパス 2605教室
テーマ1:「システムダイナミクス学会 イタリア・パレルモ大会報告」
報告者: 末武透・亀山三郎・大賀英史
テーマ2:「研究分科会報告」
報告者: 各分科会主査または幹事
テーマ3:「論文集編集経過報告」
報告者: 編集担当者

第3回 JSD 研究会

期日 : 2002年11月9日(土)13時~16時30分
場所 : 中央大学市ヶ谷キャンパス
テーマ1:「Improving Causal Mapping Practice Using The System Dynamics 'Front-End' Tool」
報告者: 上原拓郎(中央大学研究開発機構)
テーマ2:「システム思考とシステム原型」
報告者: 伊藤武志(ニューチャ)
テーマ3:「システムシンキング・モデリング・シミュレーション」
報告者: 松本憲洋(POSY)

< 講習会 >

小中高等学校教師向けシステムダイナミクス講習会

- 思考力を養うために IT を活用した総合学習を目指して -

期日: 2002年3月30日(土)13時~17時30分
会場: 中央大学市ヶ谷キャンパス 2319教室
講師: 松本憲洋(中央大学研究開発機構)、森義仁(お茶の水女子大学)、松下正則(中央大学研究開発機構)

2. フォーラムの開催

第2回 新世紀実学経営フォーラム

- 新しい電気事業モデルの設計に仮想経営を活用する -

期日: 2002年4月10日(水)13時~17時40分
会場: 中央大学市ヶ谷キャンパス9F 国際会議場
参加者: JSD 会員(29人)、講師関係(2人)、一般(35人) 合計66人
基調講演:「政策決定過程におけるシステムダイナミクス」

研究分科会3:SD教育研究分科会

主査:池田誠

活動報告:特になし

研究分科会4:自然・社会の環境モデル研究分科会

主査:森義仁

活動報告:添付資料 2

4. System Dynamics Society などでの国際交流

(1) The 20th International Conference of The System Dynamics Society

July 28-August 1, 2002 Palermo, Italy

国際担当理事をはじめ複数の会員が参加し、日本支部の活動を報告して交流を図った。

(2) System Dynamics Society の日本支部としての定例的な活動を担当理事が実施した。

5. 会員数の現状

会員数(2002年12月31日現在):105名

(内、一般会員:94名、学生会員:10名、賛助会員:1グループ 1名)

入会者数(2002年1月1日~2002年12月31日):32名

退会者数(2002年1月1日~2002年12月31日):10名

6. 運営体制

<研究会・研究分科会>

ナショナル研究会と定例研究会を止め、JSD研究会と呼称を統一した。

研究分科会を立ち上げ研究分科会ごとの活動を開始した。

<コミュニケーション>

JSD内のコミュニケーションについては、公式連絡、情報交換、研究分科会など用のメーリングリストを開設し、全面的にメールシステムに移行した。

外部に対する情報開示・普及促進活動については、従来どおりHPを活用している。

<事務局>

今まで郵送で行っていた、入退会手続き、名簿管理等の事務手続きを電子メールとウェブに移行し簡素化した。

以上。

2002年12月20日

ビジネス・プロセス・ダイナミクス(BPD)研究分科会 活動報告

1. 組織

主査:森田道也 副査・幹事:松本憲洋 副査:伊藤武志

顧問:小林秀徳

メンバー:天野佐寿、岩澤嘉則、魚躬忠則、内山章、榎本哲也、香月祥太郎、近藤史人、
佐々木登、末武透、手塚博之、戸並隆、水内啓介、宮本善文、森岡圭太、山口庸一
以上19名

2. 活動概要

毎月テーマを決めて2時間半程度の研究会を中央大学研究開発機構で開催しています。

それと並行してMLによる意見交換を行なっています。

テーマとしては、ビジネス・モデル、リスク、エクセレントカンパニー、経営情報システム等を取り上げています。

2003年3月19日に、当研究分科会が中心になって、JSD研究会をシンポジウム形式で開催する予定です。

当研究分科会では、活発な討論とグループ内のあらゆるオープン性をモットーにしています。

3. 月例研究分科会

第1回 BPD研究分科会

期日:2002年7月13日4時30分~6時

場所:中大市ヶ谷キャンパス 2813会議室

出席者:14名

配布資料:JSD研究会での報告資料、研究提案一覧、StermanのAD社に関する論文

議題:研究分科会開始準備

(1) 研究分科会の名称と役員を決定

名称:ビジネス・プロセス・ダイナミクス研究分科会(BPD研究分科会)

役員:森田主査、小林顧問、松本幹事・副査、伊藤副査

(2) 研究モデルの対象など研究方法に関する討論

第2回 BPD研究分科

期日:2002年8月2日18時~21時

場所:中央大学市ヶ谷キャンパス2617教室

出席者:9名

議題:「戦略的BSC経営“戦略の検証と適合”における“分析的方法”の一例」:松本

「ビジネスプロセスダイナミック研究分科会 研究計画(案)」:松本

第3回 BPD研究分科

期日:2002年9月6日18時~21時BPD研究会

場所:中央大学市ヶ谷キャンパス2617教室

出席者:13名

議題:

- (1) ランス・スコアカードを活用した新しい業績評価システムとは? :森岡(SAP ジャパン)
(2) Oracle Balance Scorecard のご紹介 :魚躬(日本オラクル)
コメンテーター :伊藤

第4回 BPD研究分科会

期日:2002年10月16日(水)18時15分~20時30分

場所:中央大学市ヶ谷キャンパス2617教室

内容:「トヨタはなぜ強いのか」大討論会

- (1)基調講演「エクセレントカンパニーに向けて」:森田
サブ配布資料: 新製品開発における生産システムの役割
経営のビジネスプロセスからの視点
- (2)討論の部「トヨタはなぜ強いのか」
司会・進行:(正)山口、コーディネーター:森田

第5回 BPD研究分科会 議事録

期日:2002年11月19日(水)18時15分~20時30分

場所:中央大学市ヶ谷キャンパス2605教室

出席者:8名

内容:「金融リスク管理における一手法」:岩澤

サブ配布資料: 外国為替ポートフォリオにおける最適ヘンジ戦略の一考察
BPD分科会資料

第6回 BPD研究分科会

期日 :12月18日(水)18時15分~21時

場所 :中央大学市ヶ谷キャンパス 2521教室

出席者 :8名

討論会 :「これからの経営が求める情報システムとは」

基調講演:「戦略的IT投資にて企業競争力は本当に向上するのか?」 戸並

討論 :ワーキングディナー

配布資料:「企業経営ループ」 :松本

「情報技術と経営成果の関係」 :森田

4. 今後の予定

(1) 月例報告会

第7回 BPD 研究分科会 1月21日開催

第8回 BPD 研究分科会 2月19日開催

(2) JSD 研究報告会

JSD 研究会として報告会を開催する。

期日 :3月19日13時~17時30分

場所 :中央大学市ヶ谷キャンパス

以上

自然・社会の環境モデル研究分科会 活動報告

代表者名 森 義仁

メンバー 上原拓郎、松本安生、池田誠、末武透、松本憲洋、香月祥太郎、
天野佐寿、本田数博、岡村実奈、佐野由利子、辻稔郎、雨宮隆、
森義仁

報告内容 平成 14 年 6 月 15 日にお茶の水女子大学において第一回目の打ち合わせ会議を行った。内容は 提案者により趣旨説明、池田誠氏により「SD 教育研究分科会」の紹介、鈴木航祐氏による「SD モデリングの紹介」、小川裕美氏による「大気循環モデリング演習」について講演を行い、その後運営方針について検討した。当日、衛星放送施設を利用し名古屋会場との中継を試みたが装置不良のため実施できなかったが、現在では装置の復帰が確認できているので遠隔地と共同会議を実現したい。その後、個別問題についてはメーリングリストを利用した議論を行った。

以上

JSD 研究会(3212)プログラム

1. JSD 研究会

期日 : 2003年2月12日(水)18時15分~20時10分

場所 : 中央大学市ヶ谷キャンパス 2617 教室

講演1: 18時15分~18時40分(25分間) 松本憲洋(POSY)

「ベルハルストの人口増加モデルとカオス: ロジスティック方程式のSDによる数値実験」
ベルハルストが人口増加率を表現したロジスティック方程式がカオスに関係していることをSDモデルを使って数値実験で説明します。

講演2: 18時40分~20時10分(90分) 内野 明(専修大学教授)

「21世紀日本の人口推計と人口モデル」
人口がピークを迎えその後減少に向かうのは日本だけの問題ではない。しかし、現実に世界のトップを切ってその日が近づいている。過去の長期推計がどのようなもので、それがどのように扱われてきたかを話しの出発点として、最新の推計を確認し、われわれが今後どのように将来に向かうのかを考える。もちろん、SDを利用した人口モデル、ナショナルモデルにおける人口セクタの扱いまで取り扱いたい。

2. 総会

JSD研究会に引き続き、総会を開催します。

期日 : 2003年2月12日(水)20時10分~20時30分

場所 : 中央大学市ヶ谷キャンパス 2617 教室

議題 : 2002年度会計・事業報告

2003年度予算・事業計画

その他

3. 理事会

JSD研究会に先立って理事会を開催します。

期日: 2003年2月12日(水)17時~18時

場所 : 中央大学市ヶ谷キャンパス 2813 教室

議題 : 2002年度会計・事業報告

2003年度予算・事業計画

その他

以上

2003年2月12日

理事会で以下の申請に基づく研究分科会を設置することが決まり、支部長は松本安生会員に研究分科会主査を委嘱した。

事務局

研究分科会設立申請書

下記の内容の研究分科会の設立を申請します。

申請日 : 2003年2月7日

申請者 : 松本安生(神奈川大学)

名称 : 合意形成手法研究分科会

代表世話人: 松本安生

共同申請者: 添付するExcelファイルに記載します。

趣旨 : この分科会では合意形成を支援する一つの手法としてシステムダイナミックス(SD)を取り上げ、その有効性と課題について実証的に明らかにすることを目的としています。

これまでの日本ではシミュレーションが計画を強引に推し進めるための道具として用いられてきたために、シミュレーション自体に対する不信感・嫌悪感が強くなっています。一方で、環境問題を始めとして多くの社会問題の解決のためには、住民参加、コラボレーション、パブリックインボルブメントなどの言葉に見られるように、ステークホルダー(利害関係者)間での合意形成がますます重要性を増しています。

こうした状況のなかで、合意形成手法としてのシミュレーションをもう一度見直し、正しい活用を提言していくことが重要だと考えられます。

研究内容 :

(1) 初年度

合意形成手法としてシミュレーションが活用されている事例について国内、海外の事例調査を行います。

(2) 次年度

環境政策の合意形成プロセスにSDを活用するための具体的な議論及び作業を行います。

具体的には、研究提案者が環境審議会委員等として関わっている茅ヶ崎市や狛江市などの首都圏近郊の幾つかの中規模都市を対象として、対象地域における地域環境問題モデルの作成と、そのモデリング及びシミュレーションを行政、市民、企業が同じテーブルで議論をしながら進める参加型政策分析の実証的研究を行います。

研究体制 : 原則的に2ヶ月に1回、年間6回程度、平日夕方あるいは土曜午後に市ヶ谷周辺にて行います。(もちろん、メンバー確定後に皆様の希望をお聞きます)。

このほかにJSDの定例研究会における発表(経過報告)を年2回行う予定です。また、モデル作成が必要などときにはそのための作業部会を適宜、開催します。さらに、成果がある程度まとまった段階(2年後を予定)で学会誌への投稿というかたちで報告書を提出します。

研究メンバーリスト

宮本善文、辻稔郎、池田誠、岡村実奈、天野佐寿、榎本哲也、上原拓郎

JSD研究発表会の案内

BPD研究分科会

国際システムダイナミクス学会日本支部(JSD)では、研究分科会を構成してシステム・ダイナミクスに関するグループ研究を実施しています。

この度、ビジネス・プロセス・ダイナミクス(BPD)研究分科会が中心になって研究発表会を開催することになりました。

皆様方にご出席いただき、ご批判を仰ぎたくご案内申し上げます。

期日 : 2003年3月19日(水) 13時～17時30分

場所 : 中央大学市ヶ谷キャンパス9階会議場

担当分科会: ビジネス・プロセス・ダイナミクス研究分科会(主査 森田道也)

1. ビジネス・モデリング

- § フィードフォワード・フィードバックと経営の関係
- § モチベーション、意欲など定性的要因の企業業績に及ぼす影響のモデリング
- § SDモデル・ベスト経営
- § システム思考は何に使えるか

2. リスク問題におけるSDの活用

- § ビジネス・リスクの管理
- § 為替リスク管理とSDモデル

3. 自然との調和に関するSDの活用

- § Complex Eco-economy System
- § SDによるリユースとリサイクルの考察
 - 空ドラム缶のリバースロジスティクスにおいて -

4. 企業分析におけるSDの活用

- § IT戦略という言葉から受ける大いなる誤解
- § 「結果」から「手段」へ
 - トヨタ生産方式に見る生命システム思考 -

以上

なお、内容がまだ確定していませんので、変更になる可能性がありますことをお断りしておきます。